

ある日の育児日記から (72) 佐藤 和代



つの間にか、子どもだけで遊べるようになって、「友達かきてくれた方がお母さんは楽できるわね」と言えるようになりました。そして今度は「お母さんはいないで、見ないで」というわけです。そのうち、家でなんて遊ばなくなるのかしら。

もっとも、ずいぶん成長したものだ、と感慨深い反面、弟の有も閉め出されることがよくあって、また手がかかるのです。有をなだめて、タイミングをみて、仲間に入れてくれるように頼んで：やれやれ、有も友達と勝手に遊んでくれると助かるんだけど。こっちが友達と「お母さんきちゃだめ」をするのは何年後でしようか。

最近、圭の友達が家に遊びにくると、決まって始まる遊びがあります。部屋を締め切って「はいらないでください」の張り紙をして立てこもる。はて、中何をやっているのやら。「ロックしてから入ってください」なんて大人びたことを書いた日もありました。ロックじゃなくてノックですよ、カタカナの勉強が足りないな。

小さい頃は、友達がくると、私も一緒に遊んだり、すぐ始まる小さなけんかの仲裁をしたり、それなりにかわっていました。すぐに「お母さんきて」「お母さん見て」と言われるし。それがい

